

## 二里ヶ浜の秘密を探れ!!! (1)

### —地域教材の開発と活用「歴史探訪フィールドワーク」—

【研究代表者】海津一朗（和歌山大学教育学部）

【共同研究者】山口康平（附属中学校）・山神達也（和歌山大学教育学部）

【オブザーバー】鈴木達也（和歌山大学教育学部）・平田（西脇中学校）・（附属中学校）

【活動の概要】和歌山大学教育学部附属中学校社会科では、本学の海津ゼミ（日本史）と共同で歴史探訪フィールドワークを実施しており、今回が 14 回目となる。昨年度からは地理学ゼミの山神が加わり、歴史的視点に加えて地理的視点からも地域を体験・観察することとなった。かかる経緯により、本研究課題は、「地域教材の開発と活用「地理探訪フィールドワーク」」（研究代表者：山神）と共同で実施した。対象地域を磯ノ浦周辺に設定し、地域教材「二里ヶ浜の秘密を探れ!!!」を作成した。2019 年 1 月 26 日（土）にフィールドワークを実施し、教材を作成した案内役の大学生 22 人、附属中の生徒 3 人、オブザーバーの先生方 3 名が参加した。

本研究課題は、「地域教材の開発と活用「地理探訪フィールドワーク」」（研究代表者：山神）と共同で実施したものである。本報告では、本課題を実施するに至った経緯と当日の活動状況を整理したのち、歴史分野の教育内容を指導する際に留意した点をまとめる。続く山神報告では、フィールドワークに参加した附属中学校の生徒の感想、地域教材を作成し案内役を務めた本学学生の感想・反省、そして本課題の成果と課題を整理する。これら二つの報告は一連のものとしてご理解いただきたい。

#### 1. 準備・企画

昨年度から海津（日本史）と山神（地理）の 2 名が担当する「社会科地理歴史分野学習内容構成論」（学習内容構成論）が開講した。当初は別個に教科書分析を行うことを想定していたが、共同担当する以上は一緒に何かしようということになった。そこで、海津ゼミが和歌山大学教育学部附属中学校の山口と共同で企画・実施してきた「社会科歴史探訪フィールドワーク」に山神が新たに参加して、地理的観点からの学習活動も加えることになった。本企画は今回で 14 回目の実施となる。

フィールドワークの対象地域は山神の発案で磯ノ浦周辺とした。当該地域を対象としたのは、梶川哲司『和歌山の公害—海岸線の埋立て開発をめぐる—』（ウイング出版部、2017 年）の影響が大きい。この書籍では、かつては砂浜が続いていた磯ノ浦から紀ノ川河口に至る二里ヶ浜海岸の埋立ての経緯が、住友金属の生産増強、公害の発生、漁業補償、埋立て反対運動などの点から多面的に記述されており、当該地域が日本の近代化を考えるうえで重要なフィールドであると考えたのである。特に、砂浜で遊ぶ人たちのすぐ背後に住友金属の建物が群立する風景（写真 1）から、さまざまな議論・授業を展開できることを、学生および生徒に体感してほしいという狙いがあった。なお、この写真 1 とほぼ同アングルで撮影された写真が『和歌山の公害』の表紙を飾る。

こうして磯ノ浦周辺をフィールドに選定し、海津、山神がそれぞれ下見を兼ねた地域調査を積み重ね、フィールドワークの大枠を定めた。その後、参加中学生に対する現地案内役を務める学生に対し、学習内容構成論の授業で、磯ノ浦から紀ノ川河口に至る二里ヶ



写真 1 磯ノ浦海水浴場とその背後の住友金属の工場

2018 年 6 月 30 日山神撮影

浜海岸エリアの新旧地形図や土地条件図の読図、及び磯ノ浦周辺地域全般に関わる学習を実施した。11月23日（金）には、現地案内役を務める学生とともに、中学生を案内することを前提とした下見を実施し、フィールドワークでの学習活動の内容を確定した。なお、この下見には西脇中学校の平田先生の参加を得た。その後、現地案内役は各自で担当ポイントについてのワークシート作成に取り掛かり、学習内容構成論の授業で、重複箇所や不足点などについて調整しながら、そのブラッシュアップを図った。特に12/07と1/18の授業に附属中学校から山口が参加し、ワークシート作成に向けての諸注意が与えられるとともに、ワークシートの構成や内容などについてのアドバイスがあった。

また、フィールドワーク実施にあたり、下見に参加された西脇中学校の平田先生から、地域住民の方とつながりがあるので、聞き取り調査などを行いたい場合は連絡してほしいというありがたい提案を受けた。また、本学受講生の中に対象地域近くで生まれ育ち、現在も居住する学生がいたことから、地域住民の方とのつながりを得た。そこで、フィールドワーク当日は磯の浦観光会館の一室を利用することが可能となり、そこで昼食をとるとともに、地域住民の方のお話を伺う機会を得た。

## 2. フィールドワークでのおもな学習活動

フィールドワークは2019年1月26日（土）に実施した。参加者は総勢30名で、その内訳は、ワークシートを作成した案内役の大学生22人、附属中の生徒3人（インフルエンザで欠席者が出た）、オブザーバーの先生方2名、本事業の担当である海津、山口、山神の3名であった。当日は雪のちらつくあいにくの空模様となり、磯の浦観光会館を利用できたことが非常にありがたいものとなった。

フィールドワークでは、各ポイントで案内役の学生がワークシートを配布して学習活動を展開した。各ポイントでのワークシートをクリアファイルに差し込んでいくことで、フィールドワーク終了時に地域教材「二里ヶ浜の秘密を探れ!!!」が完成するという手順を採った。図1はフィールドワークの経路と学習活動を実施した各ポイントを示したものである。以下では、各ポイントでの学習活動を整理する。



図1 フィールドワークの経路と各学習活動の実施地点  
 国土地理院 Website「地理院地図」(2019年1月24日閲覧)より作成。

### ①地形図を読もう…山室・佐郷

- \* ルートの確認
- \* 各案内ポイントでの現在地の確認
- \* 等高線から山の高さを読み取る →実際に山の高さを見比べる
- \* 地図記号の確認
- \* 歩いてきたルートの距離を計算してみる

### ②二里ヶ浜と埋め立て…松元・福田

- \* 公園と集落との間にあるコンクリートの壁は何か? →堤防
- \* かつて磯ノ浦～紀ノ川河口は砂浜が連続 =堤防より海側が砂浜
- \* 堤防の切れ目にある鉄製の溝はなに? →陸閘(りっこう)跡  
→陸閘: 普段は開放、津波や高潮のときに板などで閉じる
- \* 現在も使用されている陸閘の確認

### ③住友金属工業和歌山製鉄所(現:新日鐵住金)…篠藤・吉田

- \* 住金の歴史の説明
- \* 住金が和歌山にもたらした影響: 和歌山市は住金の企業城下町
- \* どのようなものが生産されているのか? →シームレスパイプ  
→石油掘削や天然ガス開発で使用、世界的に評価が高い
- \* 鹿島アントラーズ: 前身は住金サッカー部

### ④住金と公害…中岡・樋口

- \* 河西緩衝緑地公園…緩衝って何? ここに作られたのはなぜ?  
→住金の工場による大気汚染 →周辺地区の住民に健康被害  
→公害防止として住金の工場と市街地を隔てるように作られた
- \* 公害とは? 具体的にはどのような被害があるのか?
- \* 近年の状況は? →各種規制、企業努力などで改善されてきた

### ⑤二里ヶ浜と製塩集落…川崎・小林

- \* 附属中学校はどこにある? どんな地形か? →土地条件図の解説  
→磯ノ浦～和歌山城～高松に広がる砂丘の上
- \* 紀ノ川の流れは昔も今と同じか? →河道の変遷の説明
- \* 奈良時代の海辺の生活はどのようなものか?  
→西ノ庄遺跡、漁業と塩づくりが盛んな土地、製塩法の解説

### ⑥漁業…岡本・合田

- \* 埋め立て以前の二里ヶ浜一帯は砂浜  
→漁業が盛んだった、ハマチ・イワシなどの地曳網漁
- \* 埋め立て工事の影響 =土砂により水が濁る、魚の大量死など  
→西脇漁港の建設、地曳網漁から船曳網漁へ
- \* 近年の状況: シラス漁が有名、真鯛の一本釣りなども

### ⑦なぜ磯ノ浦に砂浜が残ったのか…西・西浦

- \* 当初の計画=現在海水浴場のある磯ノ浦まで埋め立てる  
→砂浜を守るための住民運動の展開  
=宇治田一也氏によるハンストの影響力の大きさ  
→多くの人が埋め立てを問題視するようになる  
→磯の浦の砂浜は埋め立てられることなく残ることとなった

### ⑧現在の砂浜の利用とサーフィンについて…平田・南方

- \* 磯の浦の特徴は? →長いビーチ、遠浅、サーフィンの利用  
→波消しブロックなどのない自然の砂浜



- \*砂浜の利用：海水浴場、サーフィン、各種イベントの開催
- \*磯ノ浦：大阪から最も近いサーフィンスポット
- \*海岸浸食による砂浜の減少…2004年の台風時の被害

#### ■磯の浦観光会館：昼食、地元住民の方からお話を伺う

- \*地元の自治会の会長さんなど（杉本さん、有田さん、赤羽さん）
- \*埋立て前後の砂浜の状況：地曳網漁、砂浜の後退など
- \*埋立て反対運動当時の磯ノ浦地区住民の反応について
- \*住友金属との関係：関係者も多く居住、野球部の盛り上がりなど
- \*磯ノ浦の現状について：サーフィン、道路整備、バリアフリー化、自然の豊かさ（自然の海岸、珍しい海浜植物）など



#### ⑨磯ノ浦の防災…野中・鈴木

- \*磯ノ浦からの避難経路を歩いてみよう！  
→道路の幅は？ 家へ塀の古さは？ どんな人が避難？…
- \*磯の浦東部避難場所…磯脇八幡宮の裏山、一時的な避難
- \*避難上の倉庫にはどのようなものが保管されているの？
- \*自主防災組織って何？ 自助・共助・公助とは？

#### ⑩磯の浦にある歴史を探る…曾我部・山村

- \*磯の浦東部避難所の脇にある防空壕、防空壕とは？
- \*避難所の手前にある石造物は？ →六地藏 →六地藏とは？
- \*拓本とは？ 石造物などにある文字・図像などの調査法の一つ
- \*安楽寺の手水鉢に隠された文字は？ 慶應二寅とはどういうこと？
- \*地籍図などにもとづく旧集落の空間構成の解説

#### ⑪射箭頭（いやと）八幡神社…高野・藤田

- \*由緒…神功皇后、三韓征伐、応神天皇、加太
- \*三韓征伐時の東アジアの情勢
- \*射箭頭八幡神社の現状：参拝者・初穂料などの減少  
→神社経営の悪化 →オリジナルキャラクターなどの取り組み
- \*七夕祭り、例大祭、元旦祭などの行事、こども神輿

### 3. 歴史分野の教育内容について留意して指導した点

ここでは、歴史学を担当する教員として、歴史分野の教育内容について留意して指導した点をまとめておきたい。実際の案内内容とは大幅に異なるが、専門的な研究をした大学生たちが（単なる「観光ガイド」案内とは）数段違う案内をすることこそ、このフィールドワークの醍醐味と考える。

- (1) まず大きな課題として設定したのは、この磯浦地区が前近代に加太荘の荘域（飛び地）になっていたことの意味を追求する謎解きだった。地域としては明らかに東大寺領木本荘と一体性をもつにもかかわらず、尾根を越えて対岸の加太荘に属するのはなぜなのか。歴史環境論にもとづく深い洞察が必要である。もちろんこれは「隠された主題」であり中学生のフィールドワークにおいては表だって扱うことがなかった。
- (2) 上記の地域概念を追求するに際して、基本的な方法として①水系（水田耕地灌漑範囲）の分析、②宗教的な信仰圏（石造物の分布など）、③木本荘境界の歴史のモメントの検証、の3つを優先した。あらかじめ、新旧の地誌類の検討によって、鎌倉時代の「百姓申状」により、磯脇地区が本荘である加太惣荘を訴えていることも確認している。だが、現地には古文書が残存しないので、石造物調査を優先した。
- (3) 明治地籍図（額田雅裕氏の論文で市博に未収と確認）にかわる次善の基本図として、法務局の閉鎖公図を集めて、和歌山市役所刊行の2500分の1地形図（「西脇」「日野」「木本」）に詳細に

比定して地籍図集成図を作成させた。すでに大幅な開発が終了している地区であり、この方法では溜池の分布する丘陵上については景観復元が不可能となっている。この図をもとに、磯脇の中心集落部分小字「東出荘」「西出荘」「北出荘」「寺山」をフィールドワークして、通称地名「ヤクシ」（杉本家＝続風土記に取り上げられた重要寺院薬師堂）、古道「ナカショウジ」、地籍図に城館状の地割を示す区画（ヤクシの南隣地）、字界延命寺などを確認できた。

- (4) 水系調査は不十分であるが、コヤギ（小屋木）池および「三ッ池」（マルイケ、ジャノマイイケ、イケノタニイケ）が、加太荘の谷筋に主に水を回す池であるが、その余水が磯脇・本脇の側に流れており、加太荘地域としての溜池水系の共通性・一体性が見て取れる。この点については、開発地区内でフィールドワークの主軸にならないため今後の課題として残した。池と関わり深い本脇墓地についても同様である。
- (5) 石造物調査では、磯脇八幡宮・安楽寺の裏山「テラヤマ」入口部分に「六地藏」様の石造物群が確認され、定位置から離れて裏返し（ひとつは崖に落ちかけていた）の石造物を発見した。地理学班が注目している現在の津波の避難所の立地が、この世とあの世とを画する六地藏の前を通る筋道にあることは、この地域の歴史的環境を考える上でも興味深いと確認した。また、避難所には先行して第2次大戦中の防空壕があったことも八幡宮の役割を問ううえで重要であろう。
- (6) 加太荘の飛び地・枝村としての磯浦について、相当程度に具体的なイメージができてきた。経験的に言って、荘園は境界部分にこそ特色が現われる。ここでは本脇の境界部にある矢射頭（ヤイト）八幡宮がもっとも注目される。八幡宮にありがちな神功皇后三韓征伐神話をもっているが、この場合は加太から帰国したと所伝するなど、淡島神社（雛流しの神功神話で著名）との深い関係を強調している。東大寺系の木本八幡宮にたいして、東域の境界を鎮護する海のランドマークである。近世土産の伝承から、この八幡宮の一円には「イトキリ」という独自の通称が広がるのもエリアを持つ境界神としての特色を示すだろう（中世のボウジは相互に他領を侵すためゾーンとなる）。境界の石造物・延命地藏についてもさらに追及が要される。
- (7) 最後に、続風土記にみられる磯脇・本脇の地名伝承、この地がある時期に紀ノ川の河口であったという「伝承」にふれたい。地理学の担当班と意見交換したが、この砂州を破る河口の痕跡はみられず、伝承は根拠が薄弱という。現在の川尻川は、本脇と磯脇の間を流れる小川であるが、この流路については今少し深い分析が必要ではないか。このように考える根拠は、この地が加太荘磯浦・木本を画する在所であり、このような河道（伝承としても）の意義は少なくないからである。
- (8) 以上の下準備の上で、「守られた砂浜」磯の浦の共同研究に参加した、「和歌山市本脇地区～磯ノ浦地区のフィールドワーク」を実施した。

全体に対しては、①空中写真の実体視、②閉鎖公図による地籍図集成図作成、③拓本の読み取り方、④神社神話の扱い、を演習した。

日本史ゼミ生対象の独自調査は2度である。

- 1 2018 11/23（金祝）午前中 磯脇地区・地名調査（午後に全体見学と合流）
- 2 2018 12/15（土）終日 全域・石造物調査 夜・検討会「みどり」